なかったと言いました。

ホームステイの３日間、小柳家に日本の生活のリズムを体験してくれました。朝から晩まで、生活は豊かでカラフルです。一番長いことは、子どもたちと遊ぶことです。彼らとトラックモデルを構築し、子どもの本を読んで、間違った口調で読むのが怖い、床に座って仮面ライダーを見ている子供を抱きしめる……私にとっては、おもちゃで遊ぶ機会も珍しく、本当に楽しいです！

更に、この３日間で一番楽しかったのは、横浜の日産スタジアムに来て、清水エスパルスに対する横浜マリノスの試合を観戦しました。小柳さんの家族は横浜マリノスの忠実なファンで、ほぼすべての試合でチームを応援するために現場に来なければならない。私もサッカーが好きだと知り、サッカーの楽しさを体験しました。私にとっては、これが私の人生で初めて自宅でサッカーの試合を観戦する機会になったので、中国に日本チームに注意を払っていませんが、私はとても興奮しています。この経験を通して、日本チームである横浜マリノスが一番気になるチームになると思います。試合を通して横浜マリノスが主導権を握り、得点のチャンスを繰り返しました。相手は降格チームとして防御は強固です。最終的に、横浜マリノスは得点に失敗しましたが、代わりに相手が防御的な反撃でポイントをリードさせ、最終的に相手に負けたことを後悔しました。試合は90分続き、ほぼ半分の時間、小柳さんの歓声が聞こえ、チームの喜びとスポーツへの愛に感心しました。うっかり、私は小柳さんの息子のことを考えてみましょう、彼はまた、サッカーをするのが好きです、私は彼が小柳さんの家族の栄光のために、国のために、優れたサッカー選手になる機会を持つことを願っています！

この旅行は、中国と日本の文化の違いに関する小柳さんと奥さんも多くの交流を持っていました。一番印象に残った２つのことでした。一つは食文化の違いです。中国語と日本語のテーブルには多くの違いがあります。小柳氏の家では、夕食の前後に礼儀正しかった。これは国でも聞かされていますが、個人的な経験は初めてです。そして、その言語は長い間、中国のテーブルのほとんどを消えてしまった。このエチケットは、日本人の生活の中で感謝の理解を深め、中国人は、将来の世代に感謝する方法を知らせるために、いくつかの言葉と教えの瞑想に頼ることを可能にします。二つ目は、餃子を味わうことです。一見すると、私たち中国人の餃子を思い浮かべさせてくださいが、日本人の餃子は実際には中国の揚げ餃子に似ていると言いますが、作る方法と燃焼方法は２つ違うので、小柳さんの家族とわたしは両国の文化的な誤解を持っています。両親とのコミュニケーションを通じて、ようやく違いを理解し、小柳さんの家族にわかりやすく説明できて良かったです。最後に、私たちは互いに合意に達し、中国と日本の友人が互いの文化を受け入れ、文化の違いを理解し、尊重できることを願っています。同時に、日中関係にも貢献したいと考えています。

幸せな時間は常に短く、３日間のホームステイは終了します。私の両親はまた、wechatを通じて、特に私の故郷の無錫で、小柳氏の家族を中国に招待することが重要であると私に言いました。そのとき、小柳さんの家族を連れて小龍包を食べ、霊山を訪問しなければなりません。このホームステイの経験は、間違いなく私の人生に大きな魅力をもたらします。

ホームステイ感想

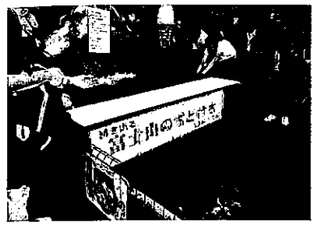
栾　知涵

八月の初めに、私は３日のホームステイに参加しました。本当に楽しかったです。神奈川県の家族と三日過ごしました。日本の色々な文化を体験しました。

私のホームステイの家族メンバーは五人です。おじいちゃんとおばあちゃんと角田先生と弟さんと弟さんの子供です。この子は六年生です。学校で野球をしています。毎日、朝から夜まで練習していますから、彼は本当に強いと思います。

八月二日、初めて角田先生に会いました。ちょっと緊張するけど、でも先生はとても優しい人ですから、私の

上手じゃない日本語を聞いて、“うん、わかる！わかる！”と言いました。だんだん親しくなってから、運転中に話がいっぱいでした。家へ来たり、ご飯を完食したり、すぐに富士山へ見に行きました。残念ですが、曇りだから、富士山は見えませんでした。ですが、忍野村へ行きました。意外に涼しいですよ！理由を聞いた後、富士山の雪の水が溶けたからだとわかりました。



第二日目、おじいさんとおばあさんと浅草へ行きました。浅草寺でお祈りしました。珍しい体験でした。写真をいっぱい撮りました。帰るとき、バスで寝ました。夜、温泉へ行きました。初めてだから、全然何をするかわかりませんでした。でも角田先生はゆっくり一歩ずつどうするかを教えてくれました。温泉に入ると、ストレスが完全に解消しました。本当に気持ちよかったです。また今度、ぜひ、また温泉へ行きたいと思います。

最後の日はＢＢＱをしました。暑いですけど、でも鶏肉と牛肉と野菜を食べると、“あ、幸せ”と思いました。バイクにも乗りました。顔に風が吹いて、涼しくなりました。別れるとき、本当に泣きそうでした。時間があれば、また、この家に帰りたいと思います。最後は“お疲れ様です！”と言いました。

短い時間ですが、たくさんことをしました。日本の文化も、温泉の入り方も、未来に絶対に役に立つと思います。日本の大学を進学するために、もっともっと、日本の面白い知識を知りたいです！

ホームステイの感想文

骆　颖珊

８月２日から４日まで、私はホームステイに参加しました。初めて外国人の家で泊まりました。ちょっと緊張しました。でも、石井さんの家族は本当に親切です。すぐにみんなと仲良しです。私は弟が１人だけです。だからずっと妹が欲しいです。凛ちゃんと杏奈ちゃんはかわいい子です。凛ちゃんはおとなしい子、絵が上手です。玄関の上の絵が本当にきれいです。あのお迎えの絵を見たとき本当に感動しました。高一郎さんと雅子さんは優しい人です。

８月２日はみんなと一緒に宮ヶ瀬湖で遊びました。ここの水は甘いです。天気が暑い、でも一緒に遊んで楽しかったです。晩ご飯は流しそうめんです。食べ方はおもしろいです。そうめんを追いかけて食べました。

８月３日の朝ご飯はおにぎりと味噌汁です。朝起きた時暖かいの味噌汁を飲んで、それは幸せだと思います。二時間後、高一郎さんが運転して、私と子供たちは神奈川県の総合防災センターへ行きました。地震体験をしました。偽の地震も怖いです。私は地震の力を感じて、命の価値をより意識させられます。午後、私と雅子さんは花火大会の準備をしました。子供たちが帰ったとき、みんな一緒におにぎりを作りました。初めて花火大会へ行って見た打ち上げ花火は美しいです。こんなにきれいな景色をきっと私の母に見せたいと思いました。

８月４日はみんなで大山へ行きました。大山の阿夫利神社で参拝しました。ケーブルカーで山を登りました。神社は山の頂上にあります。景色はとても美しいです。

この三日間いろいろな初めの体験をしました。私の日本語も上手になりました。本当にありがとうございました。お世話になりました。

一番嬉しかった三日間

万　暁琴

初めて日本人の家を訪問しました。機会があったら日本人と友達になれると思い、申し込んだときから、本当に楽しみにしていました。

八月二日、ホームステイ体験を始めました。初めて会った会議で、私は久島先生に会いました。会議の後、彼は私にこれからの数日間の計画について話しました。先生の非常に詳しい計画を見てびっくりしました。その後、先生の車でレストランへ行く途中で食事の好みについて話し合っていましたが、コミュニケーションは重要だと言っていました。私たちは私が好きな中華料理を食べに行きました。それから東京富士美術館に行きました。日本で初めて美術館へ行ったのですが、美術館に興味はありませんでした。今回も見た後、私はまだ何もわかりません。でも、私は大好きな天空の城を聞いて、江戸時代の印刷方法で二枚の絵を描きました。絵がとても綺麗で、大好きでした。天気が暑すぎたので、車の中で眠りたいと言ったら、先生は優しくて、大丈夫と言いました。それから、ソフトクリームを食べに連れて行ってくれて、本当においしかったです。牛乳が苦手な私ですが、とても美味しかったです。それから、私は先生の学校を訪問しましたが、廊下に生徒の作品がいっぱいありました。夏休みにもかかわらず、グラウンドでサッカーをしている中学生はとても元気でした。音楽教室で、私はピアノを弾いて、褒められました。その後、私は七夕祭りへ行って、日本人のように神にお祈りをしました。最後、私は先生の奥さんに会いました。彼女は私の想像した日本の女性ではありませんでした。日本の女性はおとなしいと思っていましたが、彼女はとても可愛いかったです。

翌朝、晴代さんがドアをノックして、私は目が覚めました。歯を磨いている途中、たっぷりとした朝食を見ましたが、それは日本の伝統的な食べ物なので、とても美味しかったです。それから私はかわいいミコちゃんを見て、久島夫婦は子供がいないことを知りました。しかし、彼らはボランティアをしていて、よくミコちゃんを連れて遊んでいます。偉いですね。初めは、ミコちゃんはとても恥ずかしがっていました。後で、私は公園で３歳のミコちゃんと長い間遊んで、アイスクリーム食べました。食べる時、ビデオをとりましたが、彼は私たちのビデオを何度も見て、喜んで、とてもかわいかったです。午後は、晴代さんと富士山の低温を体験して、紅富士温泉の温泉に行きました。私たちが温泉にいたとき、ずっと日本語で晴代さんとお喋りしました。本当にうれしかったです。彼女は日本の結婚生活について私に話しました。久島夫婦のために、私は彼らにおいしい中華料理を作ることにしました！先生は本当に優しいです。私は果物を食べるのが好きなので、私にたくさんの果物を買ってくれました。彼らも私の作った料理を褒めてくれました。もし私が合格したら、必ず久島夫婦のところに戻って他の美味しい中華料理を作ってあげると言いました。彼らは本当に優しいですね。

最後の日は、みんなで一緒に時をかける少女を見ました。とても切なかったです。先生は酒饅頭を買ってくれました。私は柔らかい食べ物が好きでしたから、とても美味しかったと思っていました。

この二日間、私は日本の家族で育った子供のようです。先生はとても優しく、奥さんはとても優しいです。私は彼らがずっと幸せであることを願っています。今回の体験は私が日本に来て最も幸せな体験でした。

第５回日中教育交流シンポジウム（教育交流　研究等助成事業）

昨年度の「第４回日中教育交流シンポジウム」と同じ形で、日中の学生・日本の青年教師を中心とする教育文化交流を計画しました。パネラーには、日本語作文コンクール最優秀賞の潘呈さんと、過去の入賞者で日本に留学している２名と、中国への留学経験のある日本人学生２名を選びました。また昨年と同様に今年度も、日中関係に関する意識調査の結果を基に、日中双方のパネラー、また会場にいる日中の若者を中心とする参加者のみなさんの意見を練り合わせ、課題に迫るという工夫をしました。日本語作文コンクールへの取り組みとも関連させる中で、日本と中国の若者の意識に焦点を当てて、両国の歴史性を踏まえた関係認識を考えていくそんなシンポジウムとして実施したいと思っていました。しかしながら、「新型コロナウィルス」の猛威が開催に影響し、残念ながら中止となってしまいました。来年度は、さらに充実させ、日中を中心とする教育文化交流活動を活発化させるための、一つの意味ある取り組みとして開催していきたいと考えています。

（1）実施要項

1　実施目的　○日本と中国の文化・教育等について語り、交流し、相互理解を深める。
　　○日中両国の文化・教育に対する理解の深まりを、日中両国の友好の礎を担う人材の育成に生かす。

2　実施日時　2020年２月８日㈯　14：00～17：00

3　実施場所　フジ国際語学院新宿校１号館

4　参 加 者
- 日本と中国の青年(中国からの留学生<20人>、日本の学生<10人>、日本の教職員<35人>)
- 協会顧問・理事・評議員・賛助会員・関係者・一般20人
- 全参加者数約85名

5　コーディネーター・パネラー
- コーディネーター＝日本僑報社・日中交流研究所代表　段　躍中氏
- パネラー＝「中国人の日本語作文コンクール」入賞者
  - ①潘　呈さん　上海理工大学大学院生
    第15回中国人の日本語作文コンクール最優秀賞(日本大使賞)受賞者
  - ②邱　吉さん　関西大学交換留学生
    第13回中国人の日本語作文コンクール一等賞受賞者
  - ③楊恒悦さん　ニューメディア関係者
    第７回中国人の日本語作文コンクールの受賞者
- ＝「忘れられない中国滞在エピソード」入賞者
  - ①高橋稔さん　早稲田大学四年生
    第二回「忘れられない中国滞在エピソード」受賞者
  - ②小嶋心さん　東京学芸大学三年
    第二回「忘れられない中国滞在エピソード」受賞者

6　選　　定
- 留学生については、日中交流研究所やフジ国際語学院等を通じて公募
- 日本人学生については、日中交流研究所や関係団体を通じて公募

7　内　　容　講演とパネルディスカッション

8　日　　程
- 14：00　開会　黒田代表理事挨拶・来賓挨拶
- 14：10　交流シンポジウムの方向付け（コーディネーター）
  - 基調発表　潘　呈
  - 意見交流（パネラー）
  - 総括（コーディネーター）
- 16：45　講評　初岡昌一郎先生（姫路獨協大学名誉教授・財団公益事業審査委員）
- 17：00　閉会

第15回日本語作文コンクール（教育交流　研究等助成事業）

2019年度第15回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国各地の208校の大学・専門学校・高校等から計4359作品の応募がありました。

日中関係は一昨年、国交正常化45周年、そして昨年は平和友好条約締結40周年という記念すべき年を経て、その強化をさらに加速させなくてはならないと思っています。そうした中で、前向きな両国関係を創り出そうという取り組みの一つとして、中国で日本語を学ぶ中国の若者たちの日本語学習熱や日本への関心の高まりをよりリードしていくためにも、この作文コンクールの開催意味は大きいと思います。

今回の作文のテーマは、昨年と同様に３つでした。今年は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）を翌年にひかえることからこれをテーマの１つとし、日中関係のさらなる深化・発展の一助になり得るような意見や提言のある作文を募集しました。

〈テーマ〉

１．東京2020大会に、かなえたい私の夢！

２．日中新時代を考える――中国の若者からの提言

３．今こそ伝えよう！先生、家族、友だちのこと

協会は積極的にこの事業を後援し、毎年最終審査員に加わり、日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）２編を選出しています。本年度の教育賞は、以下の方々になりました。

★教育賞・日中国際教育交流協会賞（５万円相当）

韓若氷　　大連外国語大学

林　鈺　　上海海事大学

（１）教育賞受賞作品

テーマ：１　東京2020大会に、かなえたい私の夢！

「絵の中のお兄ちゃんとイチゴ」

大連外国語大学　韓　若氷

「僕は、バスケットボール選手になりたい。」

七歳の時、偶然に出会った「絵の中のお兄ちゃん」がそう言った。

といっても本当の絵の中の人物ではない。小学校の頃、私が近所に遊びに行く時に、隣の家の「お兄ちゃん」はいつも窓から私に挨拶してくれた。

「こんにちは！」

時々私も足を止め、お兄ちゃんとおしゃべりをしたり簡単なゲームをしたりした。しかし、彼は一度も部屋から出てきたことがない。私はその頃通っていた絵画教室の壁に掛かっていたモナ・リザの絵を見たとき、窓の中のお兄ちゃんを思い出した。彼もモナ・リザのように、額縁に囲まれ、いつも笑顔だった。でも動けないモナ・リザと違って、彼はいつかきっとその窓から出てきて、私と一緒にバスケットボールをしてくれると思っていた。

三ヶ月後、「絵の中のお兄ちゃん」が部屋から出る日を迎えた。その時私は初めて、お兄ちゃんには足がないという事実に気づいた。障害者の彼は、バスケットボールはもちろん、普通の日常生活もできなかったのだ。2008年北京パラリンピックで、私は「車椅子バスケットボール」という競技を知った。そうなのだ、身体の不自由な人でもバスケットボールを楽しめる方法があるのだ。その瞬間、「絵の中のお兄ちゃん」のような人を助けたいという思いが私の中に生まれた、パラリンピックのボランティアになることが私の夢になった。

ところが、パラリンピックのボランティアになるのは決して簡単なことではなかった。私にとって、最も深刻な問題は、距離である。2012年はロンドン、2016年はリオデジャネイロ、パラリンピックが行われる国はだんだん私から離れて行き、私の夢も届かない星のようになった。しかし、2020年のオリンピックとパラリンピックが日本で開かれると発表されたので、日本語を勉強している私に希望が生まれた。

私は、高校生の頃から、市民センターで障害者のためのボランティア活動に参加して障害者についての知識を勉強している。「絵の中のお兄ちゃん」のような足の不自由な人にたくさん出会った。以前の私は、障害者の生活がとても苦しくて、何をするにも人の助けが必要だと想像していたけれど、実際に彼らと接触してみると、障害者も私たちと同じように普通の生活をしていることが分かった。李秀蘭さんもその中の一人である。彼女はその時57歳で、若い頃事故で足が不自由になり、年をとったため、視力も悪くなっていた。初めて李さんの家に行ったとき、絶対彼女の力になると思ったのに、李さんに接触すればするほど、彼女は一人でも日常生活ができて、ただ友達が欲しかったからボランティアサービスを必要としていたと解ったのだ。私は料理も家事も彼女ほど上手ではなくて、恥ずかしかった。李さんはイチゴが大好きだが、体が不自由でイチゴを買いに行くのはなかなか難しいので、ベランダにイチゴをたくさん植えていた。毎回彼女の家に行くとき、一緒にイチゴに水をやったり肥料をやったりして、本当に楽しかった。外出できなくても、生活を楽しむ方法がたくさんあると、彼女は心からそう信じているようだった。高校卒業の日、李さんは私にお祝いをいうために、わざわざ私の家まで来てくれた。車椅子の李さんの姿を見た時私は、涙が出てしまった。私たちは障害者とボランティアの関係ではなく、本当の友達になった。李さんとの付き合いで、パラリンピックのボランティアになりたいという気持ちはもっと強くなった。

確かに、障害があっても、日常生活を送ることはできるが、やはり不便さもいっぱいあって、寂しさや孤独もあるだろう。私は多くの障害者に手を貸して、友達になって一緒に幸せになりたいと思っている。2020年東京で留学生としてパラリンピックのボランティアになるのが今の私の目標だ。

（指導教師：川内　浩一）

テーマ：１　東京2020大会に、かなえたい私の夢！

「十二年後の桜の夢」

上海海事大学　林　鈺

久しぶりに親戚に会ったとき、「大学の専攻は何？」と聞かれた。

「ええと…日本語です。」私は小さな声で答えた。

小さな声になるのは、「日本人に前に何をされたか知っているか」と質問されたことがあったからである。

大都会ではそれを耳にすることは少ないが、地元の田舎の人はそのような考えを持っている。

しかし、私の祖父は、どうして古い考えを持ち続けるんだとよく言い返した。

祖父はその「前に何かされた」を経験した人である。ところが、いつも話してくれる昔話は、恨み抜きで楽しい思い出ばかりだ。

子供のころ、日本はどんな国かと祖父に聞いたことがある。「美しいはずですよ。桜の季節に桜吹雪が見られるそうだ。その光景を目の当たりにすればどんなに素晴らしいかなあ。でも、ね」

祖父はめったに心を打ち明けない。日本に対する好感を隠さざるを得なかったので、日本への憧れも胸の中に

隠してしまった。だから、私は祖父を連れて日本へ桜を見に行くと決心した。

私が日本語の専攻を選んで、一番喜んでくれたのは祖父だ。一年生の夏休みには、いつものように私のバッグに食べ物を詰めながら、「一、二、三…いちいち、いちに」のように数え始めた。

「たくさん覚えているだろう？」

「間違えましたよ。いちにではなく、じゅうにですよ。じいちゃん」と私は思わず吹き出した。

「なんだ、それじゃ、二千のような数字が読めるかい」と怒ったふりをして、聞いてきた。

「もちろんです。今年はにせんじゅうきゅう年です。留学の準備を始めるのはにせんにじゅう年よ。」

「あっ、うまいね。ところで、東京オリンピックの年だったっけ、見られるといいね」

「そうですね。」

「国会議事堂をはじめ、国の重要な機関はほとんど東京にある。桜を見てください。そして…」などと祖父の話は尽きない。

「連れて行きましょう」。

「年も取ったし、そんなに遠いところまで行けるかな」二人で思わず笑ってしまった。

祖父を連れて日本に行く夢が実現できるように、どんなに困難でも、日本語の勉強をがんばろうともう一度決心した。

でも、私の夢はもう実現できなくなった。

桜満開の季節、じいちゃんが笑顔で世界にさようならと言った。若い時に数々の苦難をなめたが、文句を漏らさなかった。よく勉強して、世界の平和に貢献するように望むだけだった。「木を見て森を見ず、それはだめ」と言って、恨みは問題を解決する方法ではないとずっと信じていた。歴史を忘れるべきではないが、それ以上に素晴らしい新時代を築くために努力する必要があると言っていた。

静かに空を見上げると、月が綺麗だ。あの世界にいるじいちゃんとこの瞬間を共に過ごせると思っていた。ウィーチャットを開いて、メッセージを送る。

「じいちゃん、こんばんは。最近の勉強は順調で、能力試験を受けて留学を申し込んでいるところです。体をちゃんと鍛えてください。2020年にオリンピックを見に行きましょう。オリンピックの聖火トーチはとても綺麗で、桜をまねたデザインだそうです。」

霧の中に朦朧たる面影が浮かんだ。

「それはいい。北京オリンピックからもういちにねん過ぎたね。」

「じいちゃん、また間違えましたよ。じゅうに年ですよ」

「はい、はい、連れて行ってちょうだい」

「じいちゃん、私に任せてください。」

急に目が覚めて、すぐ涙で目がかすんだ。

私の夢はまだ終わっていない。祖父が期待する素晴らしい新時代の到来だ。北京オリンピックから12年が経ち、桜の形をしたトーチが、いよいよ日中の情熱と温かさを伝えてくれるのだ。2020年、祖父が生涯待ち望んでいた日本の桜を見に行って、花弁を一枚ずつ数えてあげたいと思う。

「ほら、ずっと勉強を続けて、留学できましたよ。東京の桜は本当に美しいです。」

祖父にはきっと届くだろう、私の声が。

（指導教師：関　秀一、毛賀　力）

資　料　（1）会報「共生力」 30号、31号

公益財団法人日本中国国際教育交流協会

会報 NO. 30　　2019. 4. 5

共生力

HP：http://ajciee.or.jp/
Tel：055-269-6533　Fax：055-269-6534
〒400-0031　山梨県甲府市丸の内2-32-16
甲府丸の内マンション302
発行人：黒田文男

第４回日中教育文化交流シンポジウム開催

第４回ということで、「今回は、テーマに迫る資料を提示する中で、参加者から様々な意見を出してもらい、成果につなげていこう」という考え方で設定しました。協会の黒田文男代表理事、輿石東顧問からも開会の挨拶の中で、日中の教育文化交流の歴史や意義それから課題について話していただきました。

パネルディスカッションの始めに、コーディネーターの日中交流研究所所長の段躍中さんから、日本の言論ＮＰＯと中国国際出版集団による世論調査「第14回日中共同世論調査」の結果について、説明していただきました。「日本世論：中国に良くない印象を持っている86.3％、中国世論：日本に対して良くない印象を持っている56.1％、日本世論：中国に対して良い印象を持っている13.1％、中国世論：日本に対して良い印象を持っている42.2％」という調査結果をどう捉えるか？日中両国民の印象の差は何から生じているのか？お互いに良い印象を持てる関係になるためにはどうしていったら良いのか？今日のシンポジウムの中で意見交換をしていくことが確認され、パネルディスカッションがスタートしました。

パネラーとして、黄安琪さん（第14回日本語作文コンクール最優秀賞・日本大使賞、復旦大学４年生）、張君恵さん（第12・13回日本語作文受賞、長沙中日文化交流会館副館長）、朱杭珈さん（第12回日本語作文受賞、一橋大学大学院１年生）、雷雲恵さん（第11回日本語作文受賞者、文教大学大学院１年生）、大友実香さん（第１回「忘れられない中国滞在エピソード」コンクールの受賞者、翻訳者）、堀地綾さん（上海・台湾に遊学、会社員）、森本康太郎さん（台湾の大学へ留学予定、慶応大学法学部２年生）が、それぞれ意見発表をしてくれました。

中国のパネラーからは、「国と国との関係の中で、人と人の交流がいかに大切か」「文化交流を進める中でメディアの果たす役割がとても大きい」「情報を、個人の段階でも画像等で拡散していくことが必要」「日中平和友好条約締結40周年を迎えさらに日中間の相互理解を進めていきたい」「『日本語ラジオ放送』を通して日本語文化に興味を持っている人がどんどん増えている」「ネット活動は壁を越えていく」「これからの文化の交流は、『フェイス・ツー・フェイス』となって行く」「日本語を学んでいく過程で『日本語作文コンクール』と出会い、その取り組みを通して日本語の実力をつけ、大きく人生が変わった」「日本語を学んだことで、日本の文化・行動様式・その他総てに興味が持て、異文化理解の魅力や大切さを知った」「中国へ帰り、大学で日本語や日本の文化について教えていきたい」「日中交流の架け橋になりたい」「多文化共生の考えをしっかりと持つには、外国を訪れること、そこで暮らし、人々と接することがまず大切だ」等の発言がありました。

日本のパネラーからは、「中国での経験を通して、学ぶということは新しいことを知ることだと思う。それは、相手を知ることを通して自分を知ることでもある。相手の立場に立って考えたり知ることの大切さが分かった」「日本にいても中国や外国の方々とふれあえる機会がある」「『あなたの名前を中国語で発音するととてもきれいな音になります』と、先生が話され、実際に中国語の音で名前を呼んでくれとても感動したことが、中国語の学習と中国への留学へと進むきっかけとなった」「日本の企業が中国でビジネスをすることの難しさは、言語の壁だと感じた」「交流会の中で、中国語を話す、歌を歌うということを通して少しずつ中国語の習得が進んだ」「『その国に行ったら、その国の言葉を話す』そのことの大切さが分かった」「どんなことでもきっかけをつくってくれたら、異文化への興味につながるのではないか」「とても信頼できる熱いパッションを持った中国人の先生に出会い、また、社会人（中国人）とも知り合い、留学を決意した」等の話がありました。

講評は、姫路獨協大学名誉教授で公益財団法人日本中国国際教育交流協会公益審査委員の初岡昌一郎先生でした。先生は、「まず、この日中教育文化交流シンポジウムは、非常に大きな重要な役割を担って行われていて、十分な成果を上げている」と指摘されました。「特徴的なことは、日本やアジアの未来を示唆しているシンポジウムだ。その理由は、女性の方々の発言がほとんどだ」と述べられました。「これは良い意味のカルチャーショックだ。女性が進出している現場としては、日本では教育の場が挙げられる。世襲制が蔓延している国会が一番駄目だ」とも話されました。「文化については、日中の相違から学ぶことでプラスに作用できるし、それは、比較によって触発され進歩していくものだ。そして、文化の根は語学であり、人種ではなく、言葉から文化は育まれていく」と話されました。「ゆえに日本語だけの視野では真に狭く、文化を生み育てて行くにはとても不十分だ」と指摘されました。「今、中国について、存在感、影響力を危惧するようなとらえ方があるが、中国は、回復途上国といえるのでは」と話されました。「この2500年くらいの中で、中国が世界のトップとして影響力を持っていた時期は2100年くらい、今後中国がトップという世界がきても、何ら不思議ではない」と話されました。講評のまとめとして、「歴史は、必ずその時代の価値観に影響されている。『歴史』は事実にどういう光を当てるかによって変わる。あらゆる理論は、目的・意欲・価値観から生まれている。国家、民族に価値を置いて歴史論を作ると、対立の歴史が生まれる。しかし、家庭、個人、社会の繋がりに価値を置くと、対立は生まれない。」「従来の『国際関係』とは国のトップ（政治家、外交官）の交流であり、『国や領土を守ること』が安全保障であった。今日の『国際関係』は一般の人（大学、会社、諸団体、個人）の交流になりつつあり、そこには相違、摩擦はあっても、大きな対立は無い。『人々の生活を守ること』が安全保障の基本となる。今日の発表は、新しい国際関係の方向性を示している。このシンポジウムは、小さな会合かもしれないけど、未来を示す会合であった。」と、評価していただきました。

日本語作文コンクール最優秀賞受賞者 黄さんが輿石東協会顧問を表敬訪問

黄さんは、3月3日(土)に、日本教育会館5階の「東アジア教育文化交流協会」事務所に輿石東先生を訪ねました。

先生から訪中時の貴重なお話や今後の日中の若者交流などについての話を聞きました。記念品として「印伝のポーチを輿石先生からいただき感激していました。

第14回日本語作文コンクール「教育賞」２名が決定！

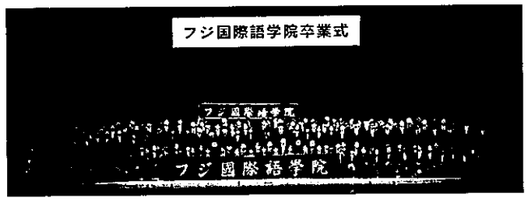
2018年度第14回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国全土の省市区の235校から4288編の応募がありました。今回も日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）の２編を選出しました。華東師範大学の劉齢さんの「流行語からの発信」・青島大学の邰華静さんの「日本の『中国語の日』に私ができること」でした。

劉　齢さん

邰華静さん

～ホームステイ参加者も進学～ “フジ国際語学院卒業式”

３月８日(金)、フジ国際語学院の卒業式が行われ赤岡業務執行理事が出席しました。1000名を超える卒業生は、今年も国公私立大学に進学しました。フジ国際語学院は1989年の創建で、中国等からの留学生への日本語教育、基礎科目教育等の指導に、取り組み成果を上げています。教育交流ホームステイに参加した学生たちもそれぞれ進学しました。ホームステイでの体験を、今後に生かしてくれることと思います。



第36回理事会・第19回評議員会で来年度事業計画・予算が決まりました

３月６日(水)に、第36回理事会と第19回評議員会が、日本教育会館７階703会議室で開かれました。2019年度事業計画（視察研修訪中団の派遣・山東省泰安市東平県への教育支援・第５次宋慶齢基金会訪日代表団の受入及び第４回日中音楽教育交流会・第８回教育交流ホームステイの実施・第５回日中教育文化交流シンポジウムの開催等）に関わる、予算（総額9,307,000円）が、全会一致で可決されました。

2019年度の取り組み予定

８月	第８回教育交流ホームステイ
９月	視察研修訪中団（北京）
	第15回日本語作文コンクール
10月	第５次宋慶齢基金会訪日代表団
	第４回日中音楽教育交流会
２月	第５回日中教育文化交流シンポジウム

※ホームステイ・音楽教育交流会・シンポジウムにつきましては、広く呼び掛けて行いますので、協会へご連絡の上、ふるってご参加ください。

公益財団法人日本中国国際教育交流協会
会報 NO.31　　2019.11.22

共生力

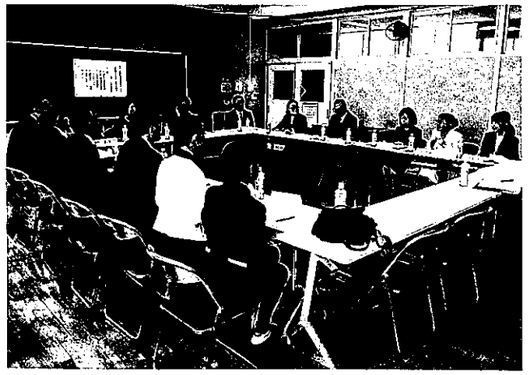
HP：http://ajciee.or.jp/
Tel：055-269-6533　Fax：055-269-6534
〒400-0031　山梨県甲府市丸の内2-32-16
甲府丸の内マンション302

発行人：黒田文男

氏　名	所属役職等
湯建軍	中国宋慶齢基金会基金部副巡視員
袁振雅	中国宋慶齢基金会基金部項目主管
董在龍	東平県仏山中学校党支部書記
史桂玲	東平県教・体局学生資助中心主任
張徳峰	東平県第三実験小学校校長
辛　誠	東平県第四実験小学校校長
宋　贇	東平県第二実験小学校音楽教師
翟明菲	東平県高級中学校音楽教師

第５次宋慶齢基金会教育交流代表団の受入 第４回日中音楽教育交流会の開催

日中の教師が山梨で交流


春日居小学校会議室での第４回日中音楽教育交流会

10月17日(木)～20日(日)の４日間、山梨県笛吹市を中心に、「第５次宋慶齢基金会教育交流代表団」の受入が行われました。これは教育交流受入事業としての取り組みで、「宋慶齢基金会及び基金会が推薦した東平県の音楽教師と音楽教育を中心とした教育交流・研修を行う。」「第４回日中音楽教育交流会を開催する。」を、具体的な目的として行われました。訪日代表団は、宋慶齢基金会基金部袁さんを窓口に東平県教育局の選考の元に編成されました。代表団の受入については、協会の理事でもある山梨県教組の小串委員長の全面的な協力を得て行われました。音楽交流会は、笛吹市立春日居小学校を会場に、笛吹市教育委員会・笛吹市教育協議会の全面的な協力のもとに行われました。

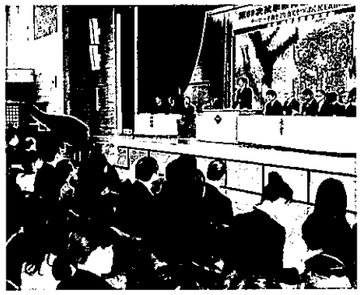
教室での音楽授業観察の様子

霜村教諭の音楽授業の様子

給食試食の様子

春日居小学校のにおいての見学研修は、日中の小学校教育の比較をしながら、その教育実践のありかたの違いについて大いに参考になった様でした。特に、児童の積極的な学習への参加の様子や先生方の指導法の工夫など関心をよせていました。また、業間に行った体育館での全校集会、そして学年合唱の発表については、とても感激・感心していました。第４回の日中音楽教育交流会もしっかりと成果を上げることができたと思います。給食の試食会も大変好評でした。春日居小

学校がごく普通の市立の学校であるということが大変驚きの様でした。山下笛吹市長・小澤教育長、長崎山梨県知事・市川教育長への表敬訪問はどちらも大変な歓迎を受け、代表団一同大変感激していました。また、歓迎レセプションでは、市長・教育長様をはじめ笛吹市教育委員会、笛吹市教育協議会、教育関係の皆様にご出席をいただき、大いに交流を深めることができました。三日目には、秋季教育研究山梨県集会へ参加し、知事・教育長をはじめ、市町村教育委員会連合会・校長会・教頭会・ＰＴＡ連合会等のすべての教育関係者が集まって開かれていることに驚かれていました。開会行事の中で、奥石東前参議院副議長（協会顧問）が、宋慶齢基金会教育交流代表団の参加に触れるとともに、宋慶齢女史のことばを引用し、感動的な挨拶を行ってくれたことに代表団一同は感激し「中国に帰って報告します」と話していました。



山梨県秋季教研集会への参加

視察研修訪中団派遣

基金会応接室での記念写真

９月６日(金)～８日(日)の３日間、北京への、「視察研修訪中団」の派遣を行いました。これは教育交流派遣事業としての取り組みで、「中国宋慶齢基金会青少年科技文化交流センターの見学及び基金会への表敬訪問と交流」を、主な目的として行われました。訪中団の日程は、宋慶齢基金会基金部項目総合所長劉顥さんを窓口に、基金会の全面的な協力の下に計画されました。北京に着いて、早速中国宗慶齢基金への表敬訪問を行いました。宋慶齢青少年科技文化交流センターに併設する宋慶齢基金会幼稚園施設の見学では、幼児教育部李淑芳主任と北京宋慶齢幼稚園劉静園長さんがみずから案内をしてくださいました。見学後交流会もセットしていただき、質疑が交わされ、大いに研修が深まりました。その後、総工費200億円とも言われるセンターの見学を行いました。“素晴らしい”の一言に尽きる施設で、児童生徒ものびのびと活動していました。新築応接室で中国宋慶齢基金会基金部宋健部長が待っていてくれました。宋部長と黒田代表理事の会見を中心に、和やかに実り多い話し合いがもたれました。その中で、財団と基金会との共同プロジェクトについて、今後どのように発展させていくかの基本や方向が確認され、次の5カ年計画については、来年３・４月に具体的な話し合いを持つことになりました。二日目に予定されていた「人民大会堂」「宋慶齢故居」等の見学については、中国建国70周年記念パレード等のリハーサルの影響を受け、「中国国家博物館」の見学だけになってしまいましたが、様々な意味で、「中国を知る良い機会」になりました。さらに、日本への台風の影響で、予定の飛行機が欠航となり、基金会の新築ホテルに急遽泊まることになりました。これもまた、大いに意味のある経験となりました。

『第８回教育交流ホームステイ』
今年度は山梨県で実施

神奈川県湘北教育会館玄関での記念

「中国人留学生の日本語学習の一助として、日本家庭でのホームステイを体験し、ホストとの交流を通して日本語の語学力を磨き、日本人及び日本文化に対する理解を深め、日中両国の友好の礎を担う人材を育成すること」を実施目的として取り組んできた「教育交流ホームステイ」が、第８回となりました。今年は、神奈川県の先生方の協力を得て、８月２日(金)から４日(日)の２泊３日で行いました。７家庭に７名で、ホームステイしました。

全体交流会でのお話や感想、アンケートや感想文からは、７人の留学生・ホストの７家庭とも「とても貴重で忘れられない有意義な時間を過ごせた」とのことでした。

お知らせ

教育交流・研究助成事業

「第５回　日中教育文化交流シンポジウム」

日時　2020(令和２)年２月８日(土)
　　14：00～16：30

場所　日本教育会館９階第５会議室

内容　日中両国青年によるパネルディスカッション・意見交換

機関関係

（１）2018（平成30）年度事業報告

１．教育交流・派遣事業

①　５カ年計画となる「宋慶齢基金会との新たなプロジェクト＝山東省泰安市東平県との教育交流事業」の４年目としての取り組みを進めました。具体的には、第17次教育訪中団を、９月27日(木)から30日(日)までの３泊４日の日程で、北京市・泰安市（東平県）・青島市で行いました。各県より12名の参加があり総勢14名で実施しました。北京では、基金会が昨年完成させた「中国宋慶齢青少年科技文化交流センター」の見学と表敬訪問、そして今後の取り組みについての打ち合わせを行いました。山東省泰安市東平県では、東平県教育局の受け入れで、東平県の小学校で視察及び授業参観、そして「第３回日中音楽教育交流会」を実施することができました。また、青島市の見学は、古代から近現代に至る中国と日本との交流の歴史という観点から、青島博物館・青島ドイツ監獄旧址博物館・五四広場等を中心に史跡・資料等について研鑽を深めました。今訪中は、日中友好条約締結40年という歴史的節目に当たる年という意味も含め、教育を中心に未来指向で日中関係をしっかりととらえるという意味で、大いに意義がありました。

２．教育交流・受入事業

①　５カ年計画の最終年度となる2019年度に、受入事業のまとめとして、「第５次宋慶齢基金会教育交流代表団」の受入を成功させるべく取り組みを行いました。具体的には、2018年９月27日に、第17次教育訪中団として、中国宋慶齢基金会の中国宋慶齢青少年科技文化交流センターを訪問した折りに、黒田文男代表理事・赤岡直人業務執行理事は、杭元祥中国宋慶齢基金会常務副主席・唐九濃紅中国宋慶齢基金会基金部部長・劉顥中国宋慶齢基金会基金部公益項目所所長を訪問し、教育交流受入事業等について意見交換を行いました。その中で、2019年度に「第５次宋慶齢基金会教育交流代表団」の実施についての検討を要請されました。代表団については、教育交流プロジェクトの実施地となっている山東省泰安市東平県の教育局・教職員を中心に、第４次代表団の成果を踏まえてと言うことで、協会としても実現に向け積極的に検討することになりました。その結果、2019年10月17日(木)から20日(日)までの３泊４日の日程で、山梨県での教育交流を中心に「第５次宋慶齢基金会教育交流代表団」の受入を行う運びとなりました。

３．教育交流・支援事業

①　「宋慶齢基金会との新たなプロジェクト＝山東省泰安市東平県との教育交流事業」の４年目として、引き続き山東省泰安市東平県への教育支援を行いました。一つには、「第３回日中音楽教育交流会」という形での音楽教育の研修会を、宋慶齢基金会を通して東平県の教育局と打ち合わせる中で実現させました。二つ目としては、東平県教育局の要望を、宋慶齢基金会を通して具体的に把握する中で、東平県下の小学校への楽器等の寄贈を決定しました。今年度教育支援費100万円については、「第３回日中音楽教育交流会」の実施のための諸経費と楽器の購入費に充てることが確認され、８月上旬の協定締結後、宋慶齢基金会を窓口として東平県へ送金しました。具体的な音楽教育に関わる楽器等の購入については、東平県よりの報告を受けています。

４．教育交流・研究等助成事業

①　日本への中国人留学生は、年々増加し年間10万人を超えています。留学生を対象として、日本を理解し日本と母国との友好を担える人材育成を行う必要性が増大しています。中国からの留学生のほとんどは、まず日本語学校に通学します。入学初年度は、語学力も十分でなく、学業のみならず生活面でも困難に直面している学生も多いと言われています。こうした留学生の語学力の向上をめざし、また日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業として第７回となるホームステイ事業を８月３日(金)から５日(日)の２泊３日の日程で、山梨県で実施しました。最終日のまとめの会での発言の中にも、終了後提出してもらった報告書や感想文を読んでも、このホームステイの取り組みが、留学生・ホストファミリーのどちらにとっても交流・理解・信頼の進展に大いに役立ったことが確認できました。

② 教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させ相互理解を深めるための取り組みとして、「第４回日中教育文化交流シンポジウム」を、３月３日(土)に日本教育会館９階会議室で開催しました。今年度も日本語作文コンクールへの取り組みとも関連させる中で、日本と中国の若者の意識に焦点を当てて、両国の歴史性を踏まえた関係認識を考えていくそんなシンポジウムとして実施しました。日中の若者・教職員・協会関係者・マスコミ関係者等で、約90名の参加がありました。パネラーには、今年度の日本語作文コンクール最優秀賞の黄安琪さんと、過去の入賞者で日本に留学・就職している３名と、中国への留学経験のある日本人学生３名を選びました。日中を中心とする教育文化交流活動を活発化させるための、大きな意味ある取り組みとして成果を上げることが出来たと思います。

③ 2018年度第14回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国全土の省市区の235校から4288編の応募がありました。日中関係は2017年に、国交正常化45周年、そして2018年は、平和友好条約締結40周年という記念すべき年を迎えました。この間、日中関係は改善への動きをさらに加速させています。そうした前向きな両国関係を背景として、中国で日本語を学ぶ中国の若者たちの日本語学習熱や日本への関心が高まりを見せていることの現れだと思われます。今回のテーマは(１)中国の若者が見つけた日本の新しい魅力(２)日本の「中国語の日」に私ができること(３)心に残る、先生のあの言葉の３つでした。協会は積極的にこの事業を後援し、毎年最終審査員に加わり、日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）２編を選出しています。本年度の教育賞は、劉玲さんの「流行語からの発信」と、邵華静さんの「日本の「中国語の日」に私ができること」でした。

５．その他の活動

① 今年度は理事会を３回、評議員会を２回、監査を１回開催しました。

② 広報関係では、2018年３月に『会報24号』を発行し、「共生力」は、28（４月）・29（11月）号を発行しました。

③ 財政確立に向けての賛助会員の取り組みは、11万円ほど集まっています。

（２）経過報告（2018年４月１日～2019年３月31日）

2018年（平成30年）

４月１日（日）	中日平和友好条約締結40周年記念レセプション（中国宗慶齢基金会・日本宗慶齢基金会日中共同プロジェクト委員会共催）
５日（木）	「共生力」NO28発行
16日（月）	事務局打ち合わせ（会計事務所と決算について） 宋慶齢基金会と打ち合わせ（第17次教育訪中団）
18日（水）	評議員・役員選考小委員会
26日（木）	内閣府との打ち合わせ（監査について）
27日（金）	中国四川省眉山市教育視察訪日団についての話し合い
５月１日（火）	会計事務所との最終確認
16日（水）	2018（平成30）年度　第１回監査委員会 第２回評議員・役員選考委員会
23日（水）	第33回理事会（日本教育会館）
24日（木）	内閣府立ち入り検査準備
25日（金）	内閣府立ち入り検査（山梨事務所）
28日（月）	第７回ホームステイ実施資料発送
６月８日（金）	上海大学東京校開校記念レセプション　黒田・赤岡（椿山荘）
11日（月）	事務局打ち合わせ
13日（水）	第18回評議員会（日本教育会館）
14日（木）	第17次教育訪中団業者打ち合わせ
19日（火）	第34回理事会（書面）発送

20日（水）	会計事務所との打ち合わせ（内閣府提出文書）
27日（水）	第34回理事会議決日（書面＝原案可決）
29日（金）	内閣府電子申請提出
７月17日（火）	第17次教育訪中団・第７回ホームステイ業者打ち合わせ
18日（金）	第７回ホームステイ留学生説明会（フジ国際新宿校）
23日（月）	第７回ホームステイホストファミリー打ち合わせ（山梨）
８月１日（水）	事務局打ち合わせ 第17次教育訪中団・第７回ホームステイ業者打ち合わせ
３日（金）	第７回ホームステイin山梨
～５日（日）	まとめの会（山梨県教育会館）黒田・赤岡
24日（金）	第14回日本語作文コンクール審査の採点送付・教育賞２名推薦
28日（火）	事務局打ち合わせ（教育支援費100万円中国宋慶齢基金会へ送金） 第17次教育訪中団業者と打ち合わせ
31日（木）	第13回日本語作文コンクール第二次審査終了
９月５日（水）	事務局打ち合わせ 第17次教育訪中団業者と打ち合わせ
21日（木）	事務局打ち合わせ 第17次教育訪中団業者と打ち合わせ
27日（木）	第17次教育訪中団（北京市・泰安市・青島市）
～30日（日）	第３回日中音楽教育交流会（東平県）
10月４日（木）	事務局打ち合わせ
19日（金）	内閣府と電話で打ち合わせ（提出書類の訂正について）
23日（火）	事務局打ち合わせ 内閣府と電話で打ち合わせ（提出書類の訂正について）
24日（水）	事務局打ち合わせ 内閣府と電話で打ち合わせ（提出書類の訂正について）
31日（水）	事務局打ち合わせ 内閣府と電話で打ち合わせ（提出書類の訂正について）
11月１日（木）	「共生力NO29号」発行 賛助会員への呼び掛け文書の発送
８日（木）	事務局打ち合わせ
13日（火）	第14回日本語作文コンクール教育賞受賞者決定（「流行語からの発信」華東師範大学　劉玲　「日本の『中国語の日』に私ができること」青島大学　邵華静
22日（木）	第１回「忘れられない中国滞在エピソード」コンクール表彰式及び祝賀会（在日本中国大使館）
29日（水）	黒田代表と打ち合わせ
12月20日（木）	事務局打ち合わせ
21日（金）	第４回教育交流シンポジウム打ち合わせ（東京）
27日（木）	役員等研修訪中団及び第５次宋慶齢基金会教育交流代表団について業者との打ち合わせ及び作業

2019年（平成31年）

１月６日（日）	事務局打ち合わせ
18日（金）	第35回理事会通知議案書発送
22日（月）	会報第25号の発刊について業者と打ち合わせ
30日（水）	来年度予算等について会計事務所との打ち合わせ（事務所）
２月１日（金）	第35回理事会議決日
８日（金）	第36回理事会・第19回評議員会開催通知、第４回教育交流シンポジウム開催案内発送
25日（月）	事務局打ち合わせ

３月２日（土）　第14回日本語作文コンクールで最優秀賞（日本大使賞）を受賞した黄　安琪（復旦大学）さんが、輿石顧問を表敬訪問
　　第４回日中教育交流シンポジウム開催
６日（水）　第36回理事会
　　第19回評議員会
３月８日（金）　フジ国際語学院卒業式へ出席
15日（金）　2018（平成30）年度　会報25号発刊
25日（月）　事務局打ち合わせ
　　会計事務所と打ち合わせ
29日（金）　内閣府へ事業計画・予算の提出

（３）2019（平成31）年度事業計画案

協会は今年度も、教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる山東省泰安市における「教育交流プロジェクト」の推進等を中心に、草の根教育交流をより深く、多様に発展させることができました。特に今年度は、第17次教育訪中団の派遣とそれに合わせて泰安市東平県で行った「第３回音楽教育交流会」で、大きな成果をあげました。また、教育交流研究等助成事業として第７回となる中国人留学生と日本の教職員家庭との友好を深める「教育交流ホームステイ」事業は、参加した学生の語学等の研修ということばかりでなく、受入れたホストファミリーを基盤に、地域での日中友好、相互理解の輪をも広げています。さらには、第４回教育交流シンポジウムの開催は、日本語作文コンクール後援との関わりを大切にしながら、日中の青年による意見交流を通しながら教育について考えるという新たな取り組みとなり、これまた大きな成果を上げてきています。

協会の持続可能な活動を発展させるため、2019（平成31）年度は下記の教育交流事業を推進します。

１．教育交流・派遣事業

①　教育交流プロジェクトと実施に関わって中国側の重要なパートナーである中国宋慶齢基金会の本部と青少年科技文化交流センターでの役員を対象とする研修中団を実施します。

２．教育交流・受入事業

①　日本での第４回音楽教育交流会の実施も内容とする形で、第５次宋慶齢基金会教育交流代表団を受入ます。

②　中国教育国際交流協会、中国宋慶齢基金会、教育工会及びその他の教育諸団体が派遣する団体との教育交流、及び学校参観などの受入れ手配等を行います。

３．教育交流・支援事業

①　５年次となる東平県への教育交流支援をおこないます。

４．教育交流・研究等助成事業

①　第８回教育交流ホームステイを実施します。

②　教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させるため、第５回日中教育文化交流シンポジウムを開催します。

③　日本語作文コンクール（日本僑報社・日中交流研究所主催）の後援を継続します。

５．機関運営などに関して

①　理事会、評議員会を年２回、監査委員会を年１回、各委員会、事務局会を随時行います。

②　年会報26号を発行します。また、『共生力』を随時発行します。ホームページの充実を図ります。

③　事業推進に関する理解を図りながら会員を拡大し、よって財政基盤の確立を図るために、引き続き組織的な取り組みを進めます。

（４）2019年度収支予算書

2019年４月１日から2020年３月31日まで　（単位：円）

科　目	31年度予算案額	30年度予算案額	30年実績見込み	増減 A-B	備　考
Ⅰ　事業活動収支の部					
１．事業活動収入					
①　基本財産運用収入	3,000	3,000	3,000	0	
基本財産運用収入	3,000	3,000	3,000	0	
②　特定資産運用収入	2,180	2,290	2,516	△ 110	
(公１)訪中派遣費用準備資金	680	160	220	520	積立金残高680万円
(公２)訪日受入事業準備資金	300	0	0	300	積立金残高300万円
(公３)教育交流支援費用準備資金	500	230	200	270	積立金残高500万円
(公４)田中一郎記念奨学基金	700	700	896	0	積立金残高400万円＋392万円
(共通)教育交流積立金	0	1,200	1,200	△ 1,200	積立金残高：なし
③　会費収入	7,000,000	7,000,000	7,027,000	0	
１．団体会費収入	6,800,000	6,800,000	6,800,000	0	
２．個人会費収入	100,000	100,000	120,000	0	
３．賛助会費収入	100,000	100,000	107,000	0	
④　寄付金収入	0	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	0	
特別寄付金収入	0	0	0	0	
⑤　事業収入	540,000	1,180,000	1,580,000	△ 640,000	
１．教育交流･派遣事業	400,000	1,040,000	1,440,000	△ 640,000	40,000×10
２．教育交流･受入事業	0	0	0	0	
３．教育交流･支援事業	0	0	0	0	
４．教育交流･研究助成事業	140,000	140,000	140,000	0	20,000×7(ホームステイ)
⑥　雑収入	0	0	19	0	
雑収入	0	0	0	0	
受取利息	0	0	19	0	
事業活動収入合計	7,545,180	8,185,290	8,612,535	△ 640,110	
２．事業活動支出				0	
①　事業費支出	8,891,000	7,046,000	7,530,017	1,845,000	
(1)　教育交流・派遣事業	2,348,000	2,928,000	3,699,666	△ 580,000	
１．役員報酬	240,000	240,000	240,000	0	
２．給料手当	300,000	330,000	300,000	△ 30,000	総額の12分の３
３．会議費	1,000	1,000		0	会議会場費　飲物代など
４．交際費	30,000	30,000	0	0	事務所来客用お茶等、土産代
５．旅費交通費	1,500,000	2,000,000	2,889,955	△ 500,000	訪中旅費、役員交通費他
６．通信運搬費	48,000	48,000	37,700	0	電話料金(３か月)
７．消耗品費	1,000	1,000	1,512	0	
８．印刷製本費	25,000	25,000	31,329	0	ゼロックスカウント料(３か月)
９．賃借料	183,000	183,000	180,600	0	総額の約12分の３
10．委託費	0	0	0	0	
11．教育支援費	0	0	0	0	
12．研究助成費	0	0	0	0	
13．謝金	0	50,000	18,570	△ 50,000	
14．雑費	20,000	20,000	0	0	
(2)　教育交流・受入事業	3,044,000	579,000	532,911	2,465,000	
１．役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	
２．給料手当	200,000	220,000	200,000	△ 20,000	総額の12分の２
３．会議費	1,000	1,000	0	0	交流会議　打合せ　会場費など
４．交際費	1,000	1,000	0	0	
５．旅費交通費	2,500,000	15,000	7,000	2,485,000	役員交通費　会議参加費ほか
６．通信運搬費	32,000	32,000	21,178	0	電話料金(２か月)　公２事業資料送付等
７．消耗品費	1,000	1,000	0	0	
８．印刷製本費	25,000	25,000	24,333	0	ゼロックスカウント料(３か月)
９．賃借料	122,000	122,000	120,400	0	総額の約12分の２
10．委託費	1,000	1,000	0	0	
11．教育支援費	0	0	0	0	交流会議　打合せ　会場費など
12．研究助成費	0	0	0	0	訪日に関わる諸費用等
13．謝金	0	0	0	0	
14．雑費	1,000	1,000	0	0	
(3)　教育交流･支援事業	1,553,000	1,573,000	1,529,453	△ 20,000	
１．役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	
２．給料手当	200,000	220,000	200,000	△ 20,000	総額の12分の２
３．会議費	1,000	1,000	0	0	打合せ　委員会　参加者会議　会場費など
４．交際費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
５．旅費交通費	15,000	15,000	10,500	0	役員交通費　会議参加費ほか
６．通信運搬費	32,000	32,000	25,646	0	電話料金(２か月)
７．消耗品費	1,000	1,000	0	0	
８．印刷製本費	10,000	10,000	5,907	0	ゼロックスカウント料(３か月)
９．賃借料	122,000	122,000	120,400	0	総額の約12分の２
10．委託費	1,000	1,000	0	0	
11．教育支援費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	宋慶齢基金会との共同プロジェクト
12．研究助成費	0	0	0	0	
13．謝金	0	0	0	0	
14．雑費	10,000	10,000	7,000	0	送金手数料など
(4)　教育交流・研究等助成事業	1,346,000	1,366,000	1,254,940	△ 20,000	
１．役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	
２．給料手当	200,000	220,000	200,000	△ 20,000	総額の12分の２
３．会議費	100,000	100,000	70,000	0	研究会　打合せ　会場費など
４．交際費	5,000	5,000		0	事務所来客用お茶、手土産等
５．旅費交通費	95,000	95,000	80,000	0	役員交通費　ホームステイ、シンポジウム旅費等

科目	31年度予算案額	30年度予算案額	30年実績見込み	増減 A-B	備考
6．通信運搬費	32,000	32,000	20,000	0	電話料金(2か月)
7．消耗品費	1,000	1,000		0	
8．印刷製本費	10,000	10,000	6,955	0	ゼロックスカウント料(3か月)
9．賃借料	122,000	122,000	120,400	0	総額の約12分の2
10．委託費	0	0	0	0	
11．教育支援費	0	0	0	0	
12．研究助成費	550,000	550,000	537,585	0	作文コンクール・ホームステイ・シンポジウム(親睦会含む)など
13．謝金	70,000	70,000	60,000	0	シンポジウムパネラー、講師謝金
14．雑費	1,000	1,000	0	0	
共通	600,000	600,000	513,047	0	
1．役員報酬	0	0	0	0	
2．給料手当	0	0	0	0	
3．会議費	10,000	10,000		0	研究会　打合せ　会場費など
4．交際費	10,000	10,000		0	事務所来客用お茶等
5．旅費交通費	100,000	100,000	88,400	0	役員国内交通費　委託先訪問時ほか
6．通信運搬費	180,000	180,000	100,000	0	切手代　賛助会費発送代　封筒代　資料送付等
7．消耗品費	20,000	20,000	48,367	0	
8．印刷製本費	250,000	250,000	250,000	0	年会報印刷代
9．賃借料	0	0	0	0	総額の約12分の2
10．委託費	30,000	30,000	26,280	0	HP使用料ドメイン使用料
11．教育支援費	0	0	0	0	
12．研修助成費	0	0	0	0	
13．謝金	0	0	0	0	
14．雑費	0	0	0	0	
②　法人費支出	2,231,000	2,261,000	2,374,743	△30,000	
1．役員手当報酬支出	240,000	240,000	240,000	0	
2．給料手当支出	300,000	330,000	300,000	△30,000	総額の12分の3
3．法定福利費支出	5,000	5,000	3,445	0	
4．会議費支出	70,000	70,000	69,346	0	理事会　評議員会等会場費　打ち合わせなど
5．交際費支出	50,000	50,000	40,080	0	慶弔費など
6．旅費交通費支出	400,000	400,000	498,710	0	理事会　評議員会旅費など
7．通信運搬費支出	30,000	30,000	41,100	0	電話料金(3か月)
8．消耗什器備品費支出	10,000	10,000	100,764	0	パソコン資金など
9．消耗品費支出	10,000	10,000	0	0	修繕費を含む
10．印刷製本費支出	1,000	1,000	0	0	
11．賃借料支出	260,000	260,000	259,380	0	総額の約12分の3更新料、火災保険料、保証料他
12．租税公課支出	5,000	5,000	1,300	0	
13．委託料支出	800,000	800,000	794,880	0	日本パートナーズ会計など
14．雑支出	50,000	50,000	25,738	0	
事業活動支出合計	11,122,000	9,307,000	9,904,760	1,815,000	
事業活動収支差額	△3,576,820	△1,121,710	△1,292,225	△2,455,110	
Ⅱ　投資活動収支の部				0	
1．投資活動収入				0	
①　基本財産変更差額収入	0	0	0	0	
基本財産変更差額収入			0	0	
②　特定資産取崩収入	10,020,000	3,320,000	19,720,000	6,700,000	
(公1)訪中派遣費用準備資金	1,500,000	1,800,000	1,800,000	△300,000	
(公2)訪日受入事業準備資金	3,000,000			3,000,000	
(公3)教育交流支援費用準備資金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学基金	520,000	520,000	520,000	0	
(共通)教育交流積立金	4,000,000				
投資活動収入計			16,400,000	0	
2．投資活動支出	10,020,000	3,320,000	19,720,000	6,700,000	
①　特定資産取得支出				0	
(公1)訪中派遣費用準備資金	5,500,000	1,000,000	17,400,000	4,500,000	
(公2)訪日受入事業準備資金	500,000		7,400,000	500,000	
(公3)教育交流支援費用準備資金	1,000,000		5,000,000	1,000,000	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金			5,000,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学基金	4,000,000			4,000,000	
(共通)教育交流積立金	0	1,000,000		△1,000,000	
②　固定資産取得支出	0	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	0	
③　その他の支出	0	0	0	0	
解約金	0	0	0	0	
投資活動支出計	5,500,000	1,000,000	17,400,000	4,500,000	
投資活動収支差額	4,520,000	2,320,000	2,320,000	2,200,000	
Ⅲ　財務活動収支の部				0	
1．財務活動収入				0	
財務活動収入計				0	
2．財務活動支出				0	
財務活動支出計				0	
財務活動収支差額			0	0	
Ⅳ　予備費支出	800,000	1,000,000	1,000,000	△200,000	
当期収支差額	143,180	198,290	27,775	△55,110	
前期繰越収支差額	2,404,914	1,505,760	2,377,139	899,154	
次期繰越収支差額	2,548,094	1,704,050	2,404,914		
Ⅴ　当期一般正味財産増減額の部				0	
一般正味財産期首残高(見込概数)	60,472,001	63,188,790		△2,716,789	
一般正味財産期末残高(見込概数)	56,095,181	60,267,080		△4,171,899	
Ⅵ　当期指定正味財産増減額の部				0	
指定正味財産期首残高				0	
指定正味財産期末残高				0	
Ⅶ　正味財産期末残高(見込概数)				0	

(5) 2019（平成31）年度役員・評議員・公益事業審査員名簿

＜ 2020（令和2）年3月1日現在）＞

評議員（7名）

井上定彦
大川正勝
小串吾郎
小山　悟
髙野雅典
別所勝也
山中小白

理　事（7名）

赤岡直人（業務執行理事）
秋山俊一
朽見誠二
黒田文男（代表理事）
鈴木伸昭
中村武志
前嶌徳男

監　事（2名）

祝迫規之
政金正裕

顧　問（2名）

興石　東
生井榮一

公益事業審査委員（5名）

初岡昌一郎
樋口弘夫
田中正志
金丸　徹（評議員）
赤岡直人（理事）

協会の歩み

設　　立　1991年１月
1992年財団法人認可
2010年８月５日公益財団法人認定
公益財団法人移行　2010年８月９日
創 立 者　田中　一郎（初代理事長）
理 事 長　生井　榮一（第２代）
代表理事　黒田　文男（第３代2010年４月～現在）

教育交流・派遣事業

1992　私立学校教職員訪中団（北京、大連）、第１次教育訪中団（北京、杭州。李鉄映国家教育委員会主任と会見）
1993　第２次教育訪中団（北京、瀋陽、撫順、大連。倪全人代常務副委員長会見）
1994　第３次訪中団（昆明、成都）
1995　第４次教育訪中団（ウルムチ、トルファン）、協会理事訪中団（北京。国家教育委員会、中国教育国際交流協会訪問）
1996　第５次教育訪中団（済南・青島、蘇州）
1997　第６次教育訪中団（日中国交正常化25周年、財団設立５周年記念北京、天津、常州、蘇州。朱国家教育委員会主任と会見）
1998　第７次教育訪中団（北京、ハルビン、長春）
1999　第８次教育訪中団（南京、杭州、上海）
2000　第９次教育訪中団（昆明、大理、麗江）
2001　第10次教育訪中団（西寧、西安）
2002　第11次教育訪中団（日中国交正常化25周年記念。南寧、桂林）
2004　第12次教育訪中団（北京、承徳）
2006　第13次教育訪中団（北京、天津）
2007　第１期安東自由大学参加団（韓国・安東市）
2008　第14次教育訪中団（北京、河北省易県）
　　第２期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2009　第３期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2010　第15次教育訪中団（北京、河北省易県）
2011　第５期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2012　第６期安東自由大学参加団（韓国・安東、大邱、ソウル）
2013　第７期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2014　第16次教育訪中団（上海・南京）
2015　視察研修訪中団（北京・泰安市東平県）
2016　第１回日中音楽教育交流会（北京・泰安市東平県）
2018　第17次教育訪中団（北京・泰安・青島）第３回日中音楽教育交流会（泰安市等東平県）
2019　視察研修訪中団（北京）

教育交流・受入事業

1992　中国教職員訪日代表団（東京、三重、神奈川、愛知、茨城、山梨、千葉、静岡）
1993　寧波市訪日団（東京、茨城、群馬、千葉）、常州市訪日団（兵庫、福井、三重）、寧夏自治区訪日団（愛知、富山、新潟）、中国教育国際交流代表団（東京、神奈川、静岡、神奈川、京都、奈良、兵庫、大阪。赤松文相と会談）
1994　江蘇省小学校長訪日団（神奈川、山梨、静岡）
1995　湖南省訪日団（愛知、静岡、三重）、蘇州市訪日団（千葉、神奈川、山梨）
1996　モンゴル赤峰市職業教育代表団（東京、北海道）、常州市訪日団（千葉、山梨、東京）卒業生就職指導訪日団
1997　日中国交正常化25周年、財団設立５周年記念教育交流訪日団（東京、愛知、三重）
1998　蘇州市・昆山市訪日団（東京、福井、千葉）常州市訪日団（東京、山梨、三重、京都、奈良、大阪）
1999　北京市第二実験小学校訪日団（東京、神奈川、京都、大阪）中国優秀教師訪日団（東京、静岡）
2000　雲南教育学会訪日団（東京、山梨、千葉）
2001　中国教育交流訪日団（東京、山梨、奈良、京都、大阪）
2002　中国特殊教育工作者代表団（東京、三重）
2003　北京市崇文区教育関係者訪日団（東京、山梨）
2006　協会設立15周年記念中国教育国際交流訪日団（東京）遼寧省体育訪日団（東京、神奈川、滋賀、大阪）
2008　中国宋慶齢基金会教育代表団（第１次）（東京、静岡、愛知、京都）
2009　中国宋慶齢基金会李寧秘書長、協会を訪問
2011　協会設立20周年記念中国教育国際交流協会訪日団、中国宋慶齢基金会教育代表団（第２次）（東京、神奈川）
2012　中国宋慶齢基金会唐聞生副主席、協会を訪問
2013　第３次宋慶齢基金会教育交流代表団（三重、京都）
2017　第４次宋慶齢基金会教育交流代表団（静岡）
　　第２回日中音楽教育交流会（静岡）
2019　第５次宋慶齢基金会教育交流代表団（山梨）第４回日中音楽教育交流会（山梨）

教育交流・支援事業

1996　雲南省災害教育復興資金（100万円）を贈る。
1998　長江水害見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じて贈る。松花江水害見舞金（50万円）を黒龍江省教育委員会を通じて贈る。
2006　協会代表、中国宋慶齢基金会、河北省易県を訪問。
2007　生井理事長が中国宋慶齢基金会胡啓立主席と会談。河北省易県小学校へ机椅子600セット及び電子キーボード40台（総額200万円）の教育支援及び音楽教師養成セミナー支援。協定書締結。
2008　四川大地震に対し、見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じ四川教育国際交流協会へ。同じく見舞金（50万円）を宋慶齢基金会を通じて贈る。また、ミャンマーサイクロン被害見舞金（50万円）をビルマ日本事務所を通じて送る。日本教育公務員共済会より易県教育支援に関し、本部奨励金（100万円）を受ける。
2009　第１回音楽教師養成セミナー参加（北京、河北省易県）
2010　第２回音楽教師養成セミナー支援・参加（70万円）
2011　第３回音楽教師養成セミナー支援・参加（100万円）。

　　東日本大震災支援「こども音楽再生基金」へ寄附（100万円）。
2012　協会代表（黒田代表理事）以下４名が中国宋慶齢基金会（李寧秘書長）、中国教育国際交流協会（林佐平副秘書長）、中国教育科学文化衛生体育工会（万民東主席）を訪問。第４回音楽教師養成セミナー支援（250万円）。
2013　第５回音楽教師養成セミナー支援（200万円）（黒田代表理事、会員代表ら８名参加）。
2014　協会代表（黒田理事長）以下３名が中国宋慶齢基金会（井頓泉副主席）、中国教科文衛體工會全國委員會（白立文國際代表）を訪問。第５回音楽教師養成セミナー支援（100万円）送金。
2015　協会代表（黒田理事長）以下３名が中国宋慶齢基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
2016　協会代表（黒田理事長）以下６名が中国宋慶齢基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
2017　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
2018　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
2019　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

教育交流・研究等助成事業

1995　中国人日本留学生に奨学奨励金制度を設ける
1997　協会設立５周年記念教育交流集会・レセプション（東京）
1999　韓国中学校教育協議会名誉会長厳圭白博士と田中会長・理事長会見
2001　中国教育国際交流協会20周年式典で、田中会長・理事長が顧問に就任。協会設立10周年記念教育交流集会（文部省後援、東京）
2002　日中国交正常化30周年記念教育交流集会・レセプション（文科省・中国大使館教育処後援、東京）
2006　協会設立15周年記念教育交流集会・レセプション（文部省・中国大使館教育処後援、東京）
2007　第３回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
2008　第４回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
2009　第５回「中国人の日本語作文コンクール」後援。
2010　第６回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
2011　第７回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンスト協賛。
2012　第１回教育交流ホームステイ（in 山梨）実施。第８回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンスト協賛。
2013　第２回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第９回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
2014　第３回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第10回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
2015　第４回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第11回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第１回教育交流シンポジウム開催。
2016　第５回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第12回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第２回教育交流シンポジウム開催。
2017　第６回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第13回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第３回教育交流シンポジウム開催。
2018　第７回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第14回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第４回教育交流シンポジウム開催。
2019　第８回教育交流ホームステイ（in 神奈川）。第15回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
（2020年３月現在）

公益財団法人日本中国国際教育交流協会とは

◆日本中国国際教育交流協会は
1971年に創立。東アジアの豊かな未来を実現するために、日本と中国を柱として、教育交流事業を進めています。子どもや教育の持つ「共生力」に限りない期待を寄せています。

◆公益財団法人とは
広く公益に資する事業を進めている法人として2010年内閣府から認定を受けました。公益法人は、寄付金に税はかからないので、支援がしやすいのが特徴です。

◆教育交流は４つの分野で
1　派遣
教育に関心のある人たちによって構成された協会が派遣する団で、学校見学、授業の交流、子どもや教職員との交流を行い、未来の東アジアを地球規模で考えます。
2　受入
諸外国からの教育関係の訪日団を受け入れ、学校訪問等を行い、教職員や子どもたちとの交流を深めています。訪日団の希望に沿って、教育現場の協力を得た研修への参加ができます。
3　支援
教育困難地域の学校に、机や椅子などの学校備品のほか、電子キーボードなどの教育機器を送っています。また送った機器を使って授業が進められるための研修を支援しています。支援を受け入れる団体は、行政または信頼のおける団体です。
4　研究等助成
田中一郎奨学基金を設立し、東アジアを中心に国際的な教育交流を担う人材を育成します。また、「日本語作文コンクール」「教育交流ホームステイ」などを通して、海外や日本で日本語を勉強している若者の学習を助成しています。

◆東アジアでのこの素敵な教育交流への参加をお待ちします。

個人会員	年会費	一口　5,000円
団体会員	年会費	一口 10,000円
賛助会員	年会費	一口　3,000円
寄 付 金	随　時	

会員、寄附をされた団体・個人には、協会の年会報、「共生力」（随時発行の会報）、海外派遣への先行連絡、イベントのご案内など差し上げます。

【編集後記】

今年度も、「日中を中心とした教育交流の取り組みを通して、人と人のつながりを大切にした、温かな血の通う民間交流を進めていこう」の志の元に、活動して参りました。

山東省泰安市東平県における、中国宋慶齢基金会との「共同プロジェクト（音楽教育交流による派遣・受入・支援事業）」も５年目が終わりました視察研修訪中団（中国宋慶齢基金会訪問・中国宋慶齢青少年科技文化交流センター視察）の派遣、第５次宋慶齢基金会教育交流代表団の受け入れと合わせて第４回日中音楽教育交流会の実施（山梨）、東平県の小学校への音楽教育支援（楽器等の寄贈）と、大きな成果を上げつつあります。研究等助成事業として行っている「第８回教育交流ホームステイ」「第15回日本語作文コンクール」の取り組みも、安定した実績を積み上げつつあると思います。残念ながら新型コロナウィルスの流行により中止となってしまった「第５回日中教育文化交流シンポジウム」については、来年度は必ず実施できるものと願っています。

第26号の会報として、この一年間の歩みをまとめました。是非ともご覧いただき、多くの建設的なご意見と、活動・取り組みへのご協力を、今後とも当協会にいただけますよう、よろしくお願い致します。

■公益財団法人日本中国国際教育交流協会【会報第26号】

2020年（令和２年）３月25日発行

発行人…黒田文男　表紙題字…田中一郎(創立者)　印刷…(株)アートプリント

〒400-0031　山梨県甲府市丸の内2-32-16　甲府丸の内マンション302

Tel.055-269-6533　Fax.055-269-6534

HP：http://ajciee.or.jp/